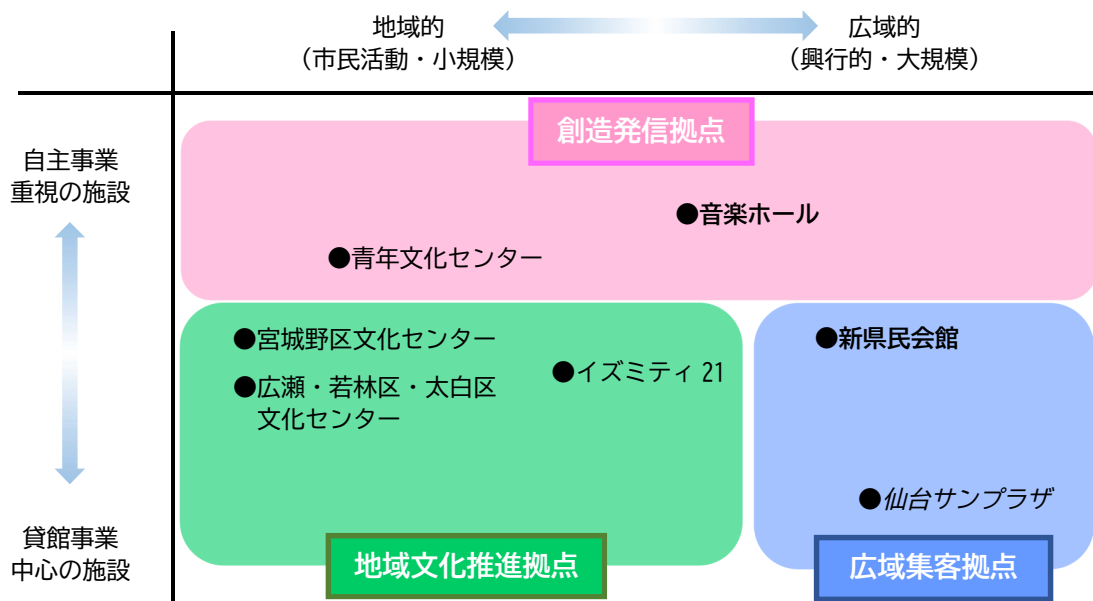


## 市内既存ホール施設・震災メモリアル関連施設との役割分担について

### 1. 音楽ホールの位置づけや役割

令和2年度に実施した市内ホール施設の体系整理において、以下のとおり整理を行っています。

#### 【施設の位置づけや役割に着目した分類による将来体系像】



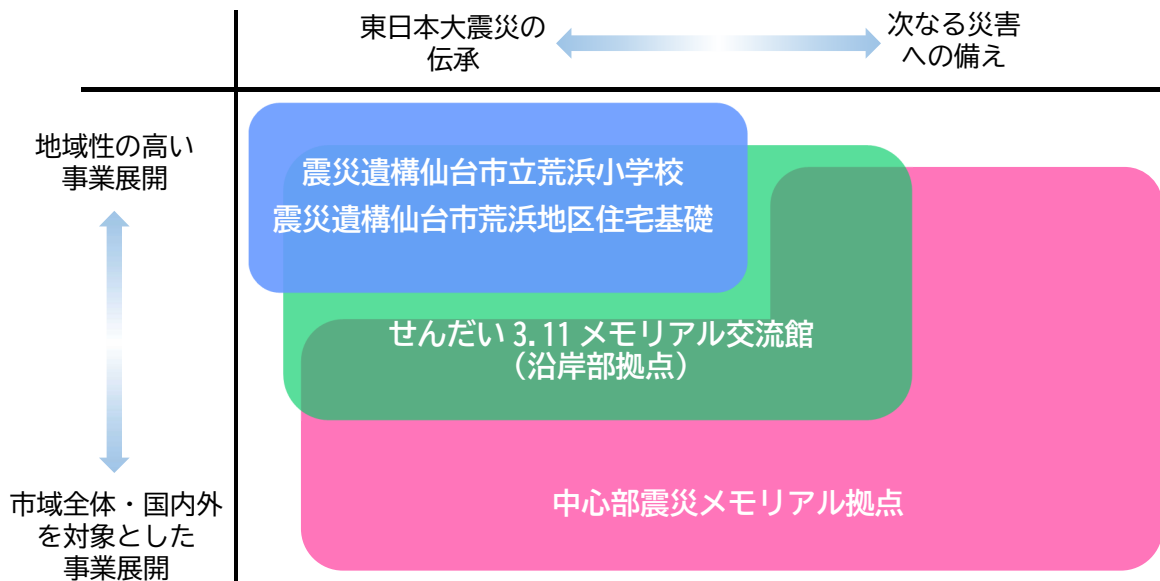
創造発信拠点	地域文化推進拠点	広域集客拠点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽の都・楽都や演劇の都・劇都を掲げる本市の文化芸術振興の中核拠点。</li> <li>・劇場法において求められている新たな文化芸術の創造・発信に積極的に取り組むとともに、それらを担う人材を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域文化の振興、コミュニティ活性化の拠点。</li> <li>・居住地の近隣に所在することにより、市民が身近に文化芸術に触れ、自ら活動する場となる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国内外を視野に展開される大規模な文化芸術公演の開催拠点。</li> <li>・東北を代表する良質な鑑賞の場となり、東北をはじめとする市外各地からの集客に資する。</li> </ul>

- 音楽ホールは、新たな文化芸術の創造・発信に積極的に取り組むとともに、それらを担う人材を育成する「創造発信拠点」と位置づけています。
- 同じく「創造発信拠点」と位置づける青年文化センターは、802席のコンサートホール、584席のシアターホールを有し、ホール規模の面で音楽ホールと差別化されており、2館で役割分担を図り多様な目的・規模・性質のコンテンツを展開していくことで効果的な事業展開が可能となります。
- 市民が身近に文化芸術に触れるとともに、自ら活動する場となる各区文化センター、広瀬文化センター、泉創造文化センターは「地域文化推進拠点」と位置づけ、今後にわたり市民活動や地域交流の拠点の役割を担っていきます。
- 新宮城県民会館は、その基本構想において「大型総合エンタテインメント拠点」を掲げており、広域からの集客拠点となることが期待されます。事業面では、「県内市町村文化施設の人材育成」などを掲げており、広域自治体と基礎自治体としての適切な役割分担を図っていきます。
- なお、市民会館及び震災復興記念館については、市内ホール施設の体系整理において、音楽ホールが開館した後は「施設の更新を行わない検討を進めることが望ましい」としました。

## 2. 中心部震災メモリアル拠点の位置づけや役割

中心部震災メモリアル拠点を含む本市メモリアル施設体系について、以下のとおり整理します。

### 【施設の位置づけや役割に着目した施設体系像】



- 中心部震災メモリアル拠点は、丘陵部での宅地被害やライフラインの途絶など内陸部での被災状況を含む震災の記憶を呼び起こし続けるとともに、災害を乗り越える術を文化として未来に向けて創造・継承し、内外に発信し続けることで各地の防災力向上に寄与する役割を担っていきます。
- 沿岸部の拠点であるせんだい3.11メモリアル交流館は、沿岸部における被災状況や、かつての海辺の暮らしや文化を伝える場であるとともに、市民団体などの活動・発表の場でもあります。中心部拠点整備後のあり方については引き続き検討を要しますが、大きな津波被害を受けた沿岸部に更に軸足を置いた活動に注力するとともに、中心部拠点と連携した活動が求められます。
- 津波の爪痕を残す数少ない施設である震災遺構仙台市立荒浜小学校及び仙台市荒浜地区住宅基礎は、中心部拠点整備後も津波の脅威・教訓を後世に伝え続けるため、保存・公開の継続を図っていきます。
- また広域災害である東日本大震災の伝承施設は、被災各地に既に数多く存在しています。後発の整備となる本拠点は、未来の災害に備える文化の醸成を牽引する「交流創造タイプ」を目指し、既存他施設との差別化を図っていきます。

